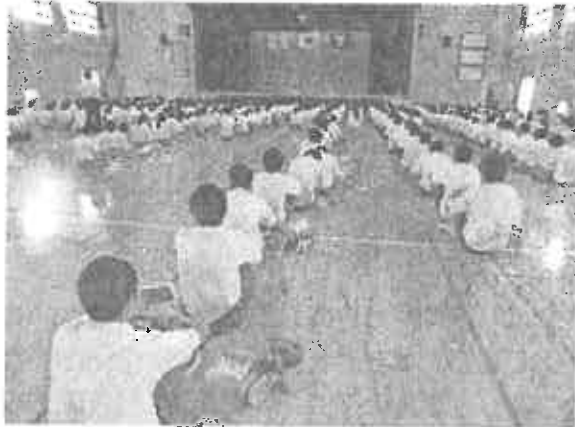


3年生 いよいよセンター試験出願

9月29日からの大学入試センター試験出願開始に備え、本校3年生も出願準備中です。

平成27年度センター試験は来年1月16日(土)・17日(日)の2日間で実施され(下表参照)、本校の出願者は、鹿児島大学会場等で受験する予定です。



3年合同LHRの様子

センター試験はマーク式の試験で、国公立大入試の一次試験としての役割のほか、私立大入試にも利用されており、昨年度は全国で約56万人が志願しました。

9月8日の3年合同LHRでは、今後受験生としてどのように入試に臨むべきか進路指導部主任から話をしました。自分の志望校

願書記入時の注意点を説明

のことをよく知り、半年後に到達しなければならぬレベルを知ること、きつい受験勉強から逃げずに、決してあきらめないこと、学年全員で学習の雰囲気をつくっていくことなど受験生としての心構えを、3年生は真剣な表情で聞き

入っていました。その後、センター試験志願票の記入や受験料納付の方法について説明がありました。

平成 28年 1月16 日 (土)	地理歴史	9:30~11:40(2科目受験)
	公民	10:40~11:40(1科目受験)
	国語	13:00~14:20
外国語	【筆記】	15:10~16:30
	【リスニング】	17:10~18:10
平成 28年 1月17 日 (日)	理科①	9:30~10:30
	数学①	11:20~12:20
	数学②	13:40~14:40
	理科②	15:30~17:40(2科目受験)
		16:40~17:40(1科目受験)

「静」の後期 進路研究を深めよう!

— 1・2年生 —

学校行事の多かった「動」の前期が終わりました。10月1日からは、落ち着いて学習に取り組める「静」の後期です。後期の1・2年生の課題は、

1年生 「文理コースの選択」

2年生 「志望校の決定」です。

1年生にとって、今回の文理コースの選択は、高校入学後初めての大きな決断です。納得した選択ができるよう、進路研究を十分に深め、周囲と相談しながら検討していきましょう。

また、2年生の秋は、志望校を絞り込む時期になります。スタディーサポートの集計(ベネッセ)によると、全国の成績上位者の6割以上が、この時期に「自分で本などを調べ、先生や周囲に相談した」と答えています。「将来の夢」や「行きたい大学」など、明確な目標を見つけることは、学習意欲の向上にも繋がります。落ち着いて勉強や読書に集中できる「静」の後期を迎えます。この時期に自分の将来について、じっくりと考えましょう。

3年生 後期放課後補習 始まる

3年生を対象に、9月9日(水)から後期放課後補習が始まりました。2次試験対策を含めた総合力養成を目的とした補習で、今年度はそれぞれの生徒の希望する進路に応じて、講座制で受講しています。放課後補習は11月27日(金)まで実施されます。

また、放課後補習の後、1時間の放課後自習も実施しています。静かな環境の中で、クラスメイトの真剣に勉強する姿を見ることで、互いに刺激し合って取り組んでいます。

さらにその後、希望者は夜8時まで図書館併設の学習室での自学に取り組んでいます。3年生の表情や会話はますます受験生らしくなってきました。

【1学年部より】

★ 要チェック！一読三嘆の取り組みについて！

月に1度の一読三嘆週間、取り組みはどうだろうか？各方面・各ジャンルの新聞記事や社説等から多くのことを学ぶチャンスである。もう一度、取り組む意味を確認しておこう。

「一読三嘆」とは！

- 意味 辞書的には「一度読んで何度も感心する」という意味であるが、本校では「一読して色々な角度から自在に感じ取り、考えてほしい」という願いをこめて名付けたものである。
- 趣旨 時事に関する様々な文章を読み、考えることで、広く人間や社会への関心を持つ。学年毎に目標を設定し、文章を読みとる力や、テーマについて考える力、考えたことを表現する力を身につける。

今、朝日子で小論文対策が進んでいるだろう。自分の意見について、いかに相手を説得できるように書くかを問われる小論文では、一貫した意見とそれを支える根拠が必要不可欠だ。そのための知識を集め、思考力を養うことができるのがこの一読三嘆である！

また、1年生の目標は「文章に慣れ、社会の出来事に関心を持つ」ことである。小論文では設問要求に答えなければ評価の対象にならないので、まず何が問われているのかをつかむことが重要である。日頃から社会に対する問題意識や基礎的な知識を持つことによって、出題意図やそのねらいがつかみやすくなるのだ。

だからこそ、一読三嘆の「① 今日の話（事実）は何だろう」「② 著者の『意見』（主張）は何だろう」「③ 君の意見は？」の3つにぜひ向き合ってもらいたい。10分間という短い時間だが、その「考える」ということが、必ず受験や社会で役に立つはずだ。集中して取り組むべし！！

★ 紅軍魂 絶対勝利！

「応援の部 紅軍（1年）84点 緑軍（2年）82点 青軍…」のアナウンスで1年の応援団の喜ぶ顔が見られた。（2年生に勝った、凄いぞ！）9月5日に行われた第53回体育祭で、競技の部では2・3年生には全く歯が立たず大差がついての完敗。しかし、応援の部で1年生が僅かでもあるが、2年生に勝ったのである。今まで学年別対抗の体育祭で1年生が勝ったということは見たことも経験したこともない。考えてみれば、この1年生の応援団は当初より「2・3年生に絶対勝つ」というとんでもない目標を団長が掲げ、団員全員がその目標に向けて一致団結して練習をしていた。2・3年生に勝つと言うのは簡単だが、実際は難しいだろうと思っていたが、彼女らの練習の様子は、手や指先の動き、声出しなどお互いに厳しく注意・指導し、生半可な気持ちで練習していないと感じ取れた。体育祭が近づくとつれ、周りの先生方からも今年の1年の応援団の意識は違うと言われ、ひょっとしたらいけるのではないかと思うようになった。そして、当日、成績発表。応援団のみんなの表情はとても爽やかで、これまでの厳しい練習と結果に満足していたことが良くわかった。全く叶わないと思っていた目標を達成できたことはこれからの学校生活を送るのに大きな自信になったのではないかと思う。

★ クラスで受験する・勝負するという雰囲気

昨年度3年生と関わった関係で、この時期卒業生がよく訪ねて来る。その中に昨年度受験を失敗して、今、福岡の予備校で大学受験に向けて頑張っている生徒と話す機会があった。「昨年は『井の中の蛙』だった」と彼は悔しい気持ちで語り、なぜかと理由を尋ねると「学級での雰囲気になじめなかった。クラスで受験する・勝負するという雰囲気ではなかった。」というのである。「『〇〇大学合格』というかなり高い目標を掲げてはいたが、それに似合った努力をしていなかった。不合格というのは当然の結果。そして今、予備校では多くの受験生が高いレベルの大学の合格を目指して努力している。昨年と全く違う雰囲気の中にいる自分は、まだ模試の判定も厳しく、きつい状況である。しかし、必ず合格する」と言って、また福岡に帰って行った。必ず良い結果が出るだろうと確信した。

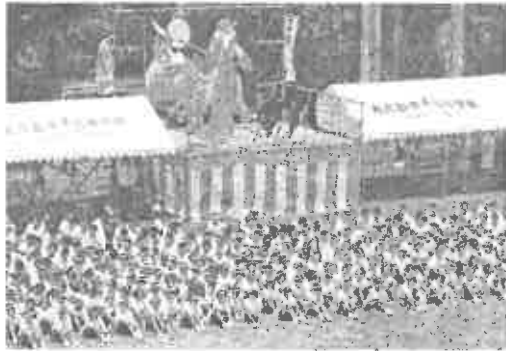
★ 高い目標の設定と周りの雰囲気作り

全く叶いそうにもない高い目標でも、強い気持ちで高く掲げ、周りの良い雰囲気を味方につければ夢は叶うと思いたい。1年生にとってまだ2年以上先の進路ではある。目先のことはもちろん大事であるが、今の実力より「1つ上のレベル」に目標を設定してみてもどうだろうか。1年の応援団と卒業生からまたいい刺激を得たと本当に思う。

【2学年】

緑軍優勝！～やっぱり強かった…～

5日に行われた第53回体育祭において、我々「緑軍」が3年生の追撃を許すことなく、堂々の優勝を果たした。各競技で頑張った諸君、緑軍を一手にまとめてくれた応援団、パネルを描いてくれた皆さん、そして支えてくださった先生方、全員で勝ち取った優勝でした。みんなで力を合わせて優勝という「目標」を勝ち取ることができたこの経験が、今後の君たちのあらゆる学習活動や部活動等において存分に発揮されることを期待したい。



聞くところによれば、これまで緑軍は優勝したことが少なく、実に11年ぶりに競技の部で優勝を果たしたという…。来年は「連覇」をかけた年になる。恐らく3年生のように後輩たちに追われる立場となるだろう。追われる立場に相応しい3年生に成長し続けていこうではないか。君たちは決して独りぼっちではない。掲げた「目標」

に向かって一生懸命努力する仲間がいる。そして、君たちを献身的に支えてくれる先生方や応援してくれる保護者がついている。自分が周りから支えられていることを実感しながら、自らの掲げる「目標」に邁進する君たち一人ひとりであってほしい。来年も必ずや優勝し、緑軍「連覇」を果たそうではないか！

前期→後期「よ～い、ドン！」

早いもので25日が前期終業式。2年生になったの「折り返し」であり、高校生活の「折り返し」を迎えることになった。本校に入学してからちょうど中間点。これまでの高校生活を振り返るとともに、これからの後半戦をいかに過ごすべきかを考える時がきた。これまでの生活を振り返った時に、「たいへんよくできました」と評価できる人は意外と少ないものだ。「ああすればよかった」「こんなはずじゃなかった」と後悔する人がほとんどである。それは今を懸命に生きてきたという証。ここで後ろを振り返ったなら、それを反省として糧にし、前を向いて前進し続けていこう。これから先もスタートは何回あってもいい、「よし、がんばるぞ」と立ち上がってきてほしい。残された高校生活を考えると、挫けたり、立ち止まったりしている時間が惜しいのだ。さあ、後期が始まる。改めて「よ～い、ドン！」だ。



【3学年部から】

1 51期生の現状と課題

(1) 体育祭を終えて。

去る9月5日、素晴らしい天候の下、第53回体育祭が行われた。以前も話したことだが、諸君のひたむきな、一途な表情は実に美しかった。競技の部では2年生に譲ったが(受験勉強により体力が落ちていた、と思いたい)、応援の部では貫禄の優勝を果たすことが出来た。高校時代の最高の思い出であると共に、諸君の団結をいっそう促すことになったものと信じていたい。



10月1日(木)時点で、来年1月16日のセンター試験まで107日。ヒタヒタと迫り来る本番の日に、焦りを覚える者もいるのではないだろうか。国語・数学・英語の三教科はほぼ仕上げ完了の時期、自信はいかがか。もちろん、授業でもセンター演習を行うが、各自の弱点・自信の無いところは克服できているか。自分なりの簡潔なまとめノートを作っておく等、基礎・基本を完璧にしておこう。いたずらに難しいことをする必要はない。そして、理科や地歴公民科の仕上げへと徐々にシフトしていきたい。体育祭で見せてくれたあの真摯な姿勢を、学業にも発揮してほしい。

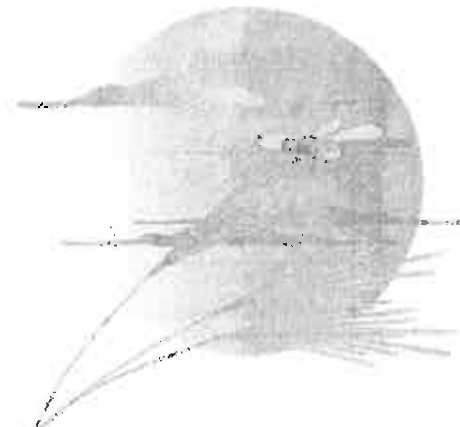
(2) センター試験志願書、提出。あとは「受験勉強の秋」。

9月中旬に、担任の先生からの指導を受け、センター試験の志願書を仕上げた。受験料振り込みやイヤホンの不適合については問題なかっただろうか。9月30日(水)、志願書は学年全体でとりまとめて、進路指導室経由で発送を完了する。「賽は投げられた」わけである。あとはもうやるしかない。人生で最も勉強する時期と心得て、最大限の学習を行ってほしい。放課後補習や自習の時間を大切に有効に使おう。苦しいことはもちろんあろうがお互いに励まし合い、高みを目指そう。

気候も涼しくなってきた、勉強には最適な季節である。もちろん、全国50万のライバルにとって同様である。手を抜いただけ、怠けただけ、一日また一日と差を付けられることだろう。願わくば、全国のライバルに差を付ける側になることを。もちろん、諸君を支えてくれる保護者や先生方への感謝の気持ちを忘れずに……。

2 10月の進路関係、その他の行事

- (1) 小論文模試(3日)
- (2) 第3回実力考査(7, 8日)
学年PTA および懇親会(7日)
- (3) 団訓(9日)
- (4) 進研記述模試(10, 11日)
- (5) 南薩路遠行(16日)
- (6) 土曜授業(3, 24日)



後期始業式は1日(木)。その日朝課外はなく、1, 2限の授業の後宝山ホールへ移動し、芸術観賞会となる。著名なサクソ奏者、MALTA氏の演奏でリフレッシュしよう。

7日(水)、8日(木)は第3回実力考査。入試問題レベルの応用問題のみが出題される。本番の予行演習のつもりで臨もう。もちろん、復習・反省も確実に。なお、7日には学年PTA および懇親会も開催。保護者の方々、お忙しい中ですがよろしくお願ひいたします。

3日(土)は授業後に小論文模試の2回目、10日(土)、11日(日)は進研記述模試。

9日(金)は苦しくも楽しかった(?) 団訓のフィナーレ。翌週16日(金)はこれも最後の南薩路遠行。次々に「最後の」が付く行事が多くなるが、これからまさに高校生活の締めくくりの時期になっていく。悔いのないように残された一日一日を大切にしていこう。